

長崎商 2年連続4強 女子

躍動の青い力 四国総体2022

連続4強入りした。剣道女子団体の西陵は予選リーグ1勝1分けて1位となり、2005年大会以来となる決勝トーナメント(16校)進出を決めた。

自転車男子スプリントの松本昂大(鹿町工)、スクラッチの足達健士郎(同)は4位入賞。弓道女子個人の森本結葉(島原も4位)に入った。カヌースプリント2000mの西陵勢は2艇が入賞。女子カヤックフオア馬渡鐘ヶ江、川口、村川)が5位、男子カナディアンフオア(古賀、内野、圓能寺、前川)が7位でゴールした。陸上男子800mは決勝に臨んだ井口愁斗(瓊浦)は1分57秒25で9位だった。

7、8日は四国各地で12競技を実施する。

(成績は団体決勝と県勢)

ソフトボール

【女子】

▽3回戦
安田女(広島) 20000000
長崎商(長崎) 1000033X 42

▽準々決勝
長崎商(長崎) 000020000
津商(三重) 000000000 02

▽長後田 松尾愛
▽本塁打 松尾愛、吉岡、北川(長)

▽準々決勝
長崎商(長崎)

000020000
津商(三重) 000000000 02

▽長後田、北川、松尾愛
(津長利、中村羽)
▽本塁打 松尾愛(長)



【ソフトボール女子準々決勝、長崎商・津商】4回表長崎商1死一塁、松尾愛(中央)が先制の左越えミランを放ち、笑顔でベンチに戻る

―高知市、高知県立春野総合運動公園運動広場

一発攻勢で試合決める「勝負強さ出てきた」

ソフトボール女子の長崎商が3回戦、準々決勝のダブルヘッダーを制して準決勝に進出。4校同時優勝だった昨夏に続いて4強入りを果たした。溝口監督は「ここに来て勝負強さが出てきた」と試合を重ねるたびにたくましくなる選手たちに目を細めた。

安田女(広島)との3回戦は1点を追う六回、豪快な一発攻勢で試合をひっくり返した。まずは先頭で打席に立った主将で捕手の松尾愛。甘く入った初球を左中間へ運んで同点になると、1死から吉岡、北川が連続でアーチをかけた。この3発で4―2と逆転した後は、持ち味の守備も乗ってきた。松尾愛が盗塁を2度も阻止するなど、完投したエース後田を支え続けた。

津商(三重)との準々決勝も試合を

ハイライト

決めたのは主将だった。0―0の四回に追い込まれながらしつかり振れた」と先制2ランを放った。守っては後田、北川が完封リレー。四回から登板した北川は六回に2死満塁のピンチを迎えたが「バックを信頼して、ゴロを打たせようと低めに集めた」。遊ゴロに打ち取り、得点を許さなかった。

雨に左右された昨夏は準々決勝までで打ち切りとなったため、ここから先はチームにとって初めてのステージになる。その準決勝の相手は、春の全国選抜大会準Vの山梨学院。「目標を達成するために最後までチャレンジしてほしい」(溝口監督)。「やってきたことを出し切るだけ」(松尾愛)。長崎商はあくまでも挑戦者として、悲願の単独日本一を取りに行く。

(則行優志)